

## 2025\_0203 「天気雪（動画）」日々の理科 3833号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

「天気雨」というのは時々出会えます。いわゆる「キツネの嫁入り」ですね。上空の風よりも重力に負けて、雲を「出発」した雨粒は、ぶつかって大きくなりながら、地面や海面に向かって降下してきます。雲から地面や海面までは時間がかかります。上空の風が強いと、その間に雨雲が移動したり、消えてしまうこともあります。すると地表は降雨帯に入っているのに上空の雲は消えて、日が射すというわけです。これが「天気雨」の仕組みです。

稀に「天気雪」という現象もあります。多くの場合は「風花（かざはな）」という現象です。これは快晴の日に、雪粒が舞うという奇怪な現象です。これは遠くの山で降った雪が、風に飛ばされて運ばれてくるという仕組みです。「風花」とへ別に、「天気雨」と同じ仕組みのこともあり、昨日は雪が降っているのに、太陽も少し見えていました。何とも幻想的な景観でした。

(2025年2月上旬／北軽井沢)

